

卒業予定者アンケート 報告書(2025年度卒業)

調査方法

本学のポータル機能を用いた、4年生対象のオンライン調査

調査期間

2025年12月17日(水)～2026年3月31日(火)

有効回答

133部(回答率:89.3%)

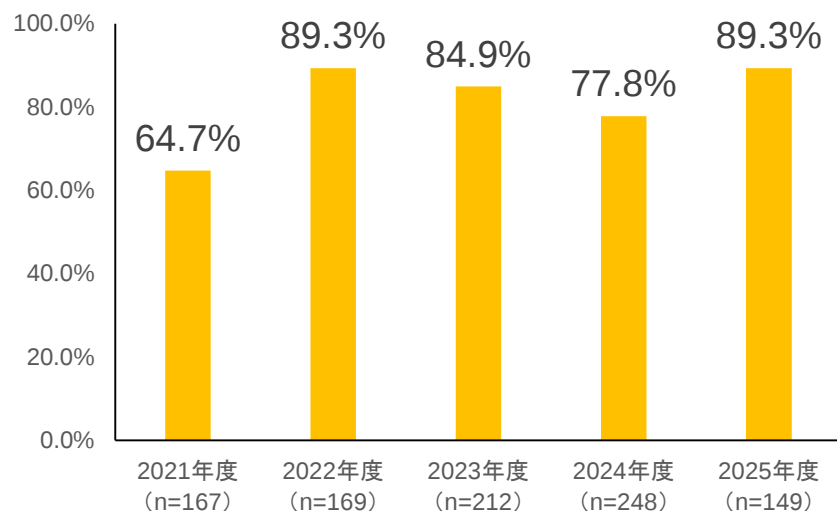
分析方法

分析の対象者は、設問に1つでも回答した学生とした。
回答率を算出した後、全体と就学地ごとに各項目の割合を算出した。

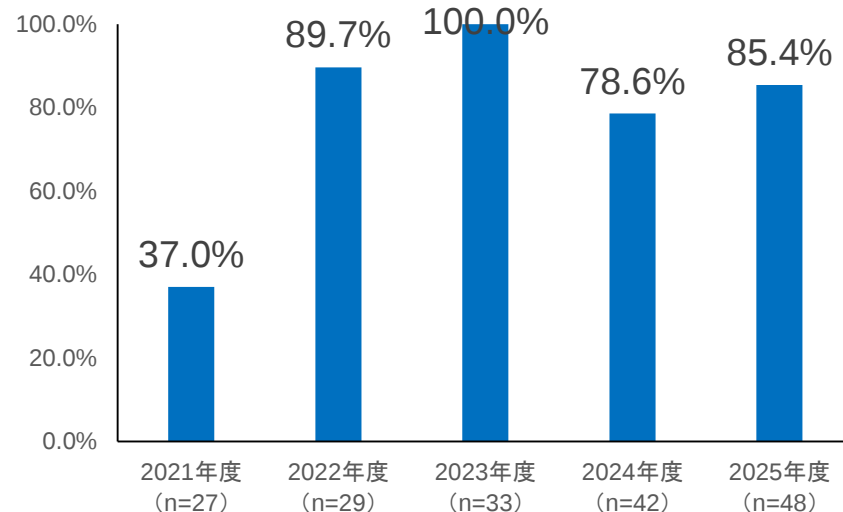
1. 回答率



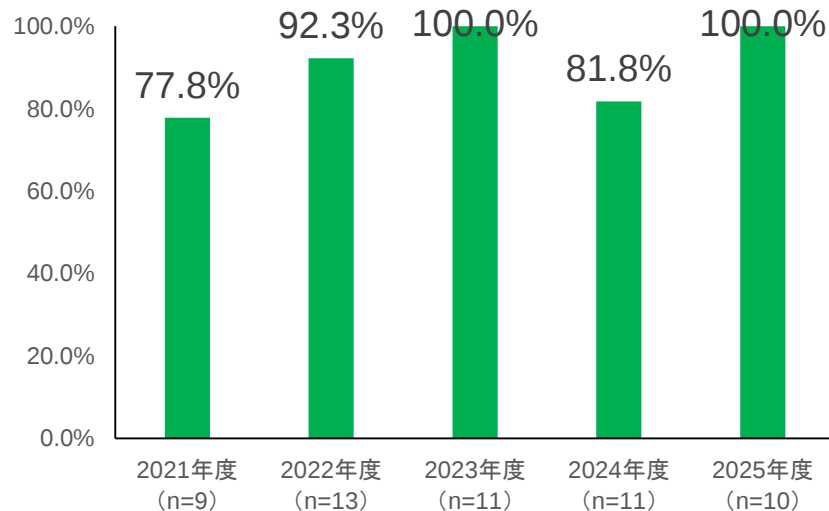
回答率(全体)



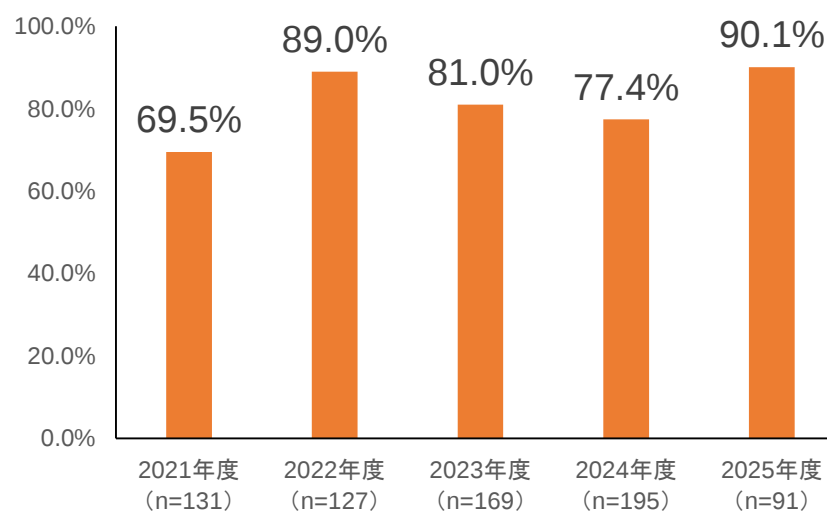
回答率(健康スポーツ専攻)



回答率(子ども専攻)



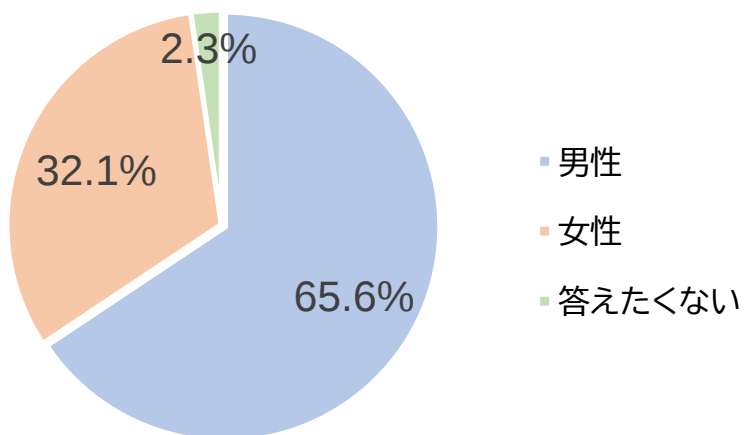
回答率(現代ビジネス専攻)



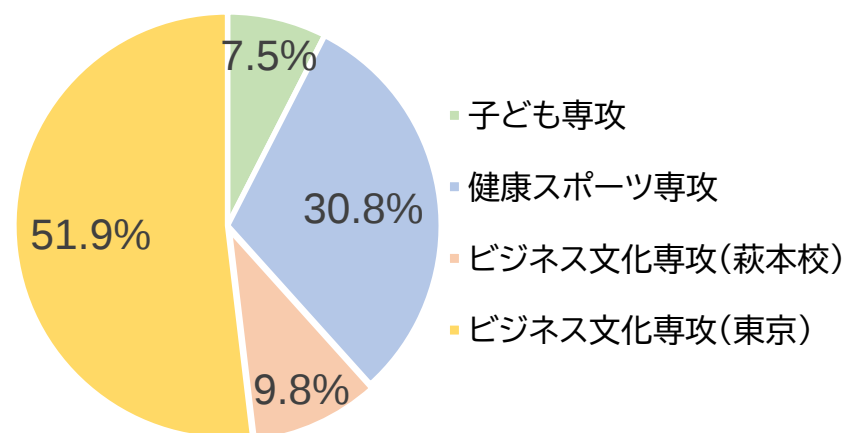
2. 全体：質問6ならびに1~3の結果



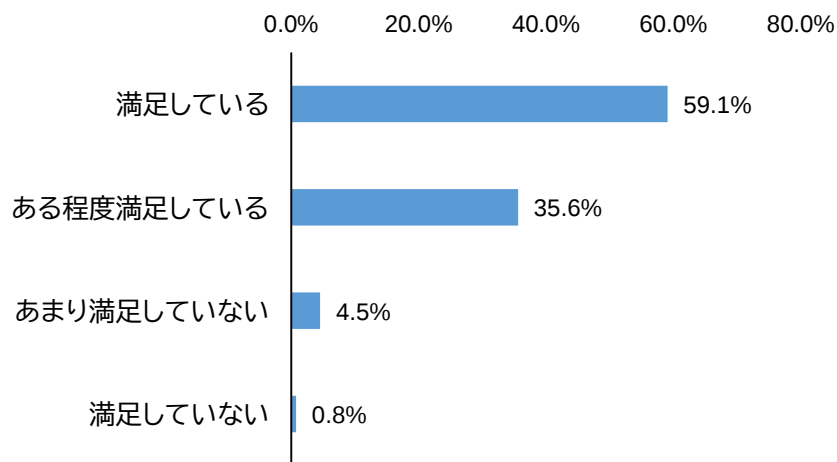
Q6. あなたの性別を教えてください(n=131)



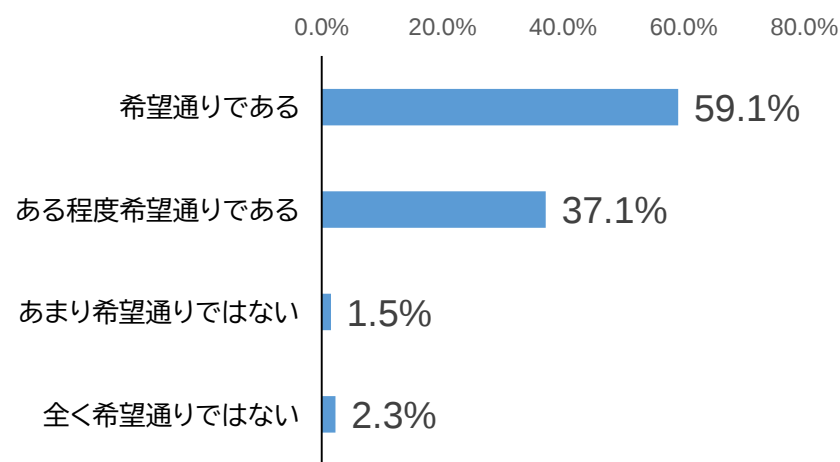
Q1. あなたの所属専攻を教えてください(n=133)



Q2. あなたは、大学での学びに満足していますか(n=132)



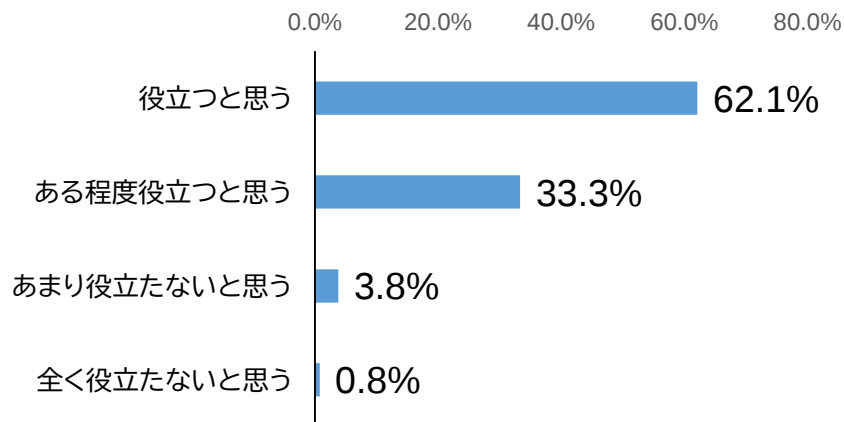
Q3. 卒業後の進路は、あなたの希望に沿ったものですか(n=132)



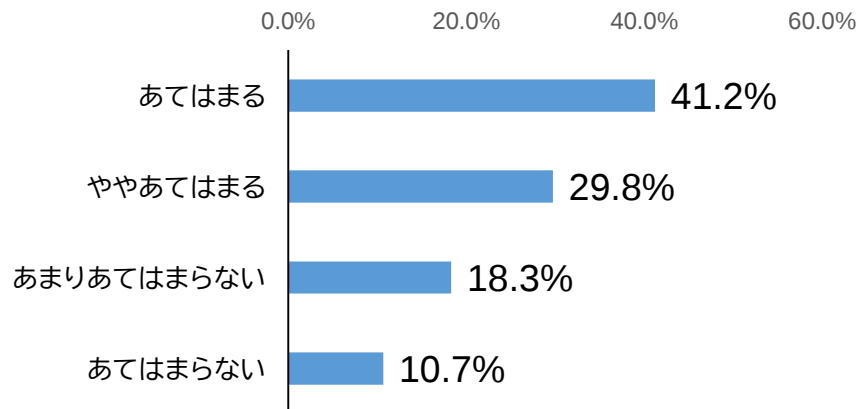
2. 全体：質問4ならびに5の結果①



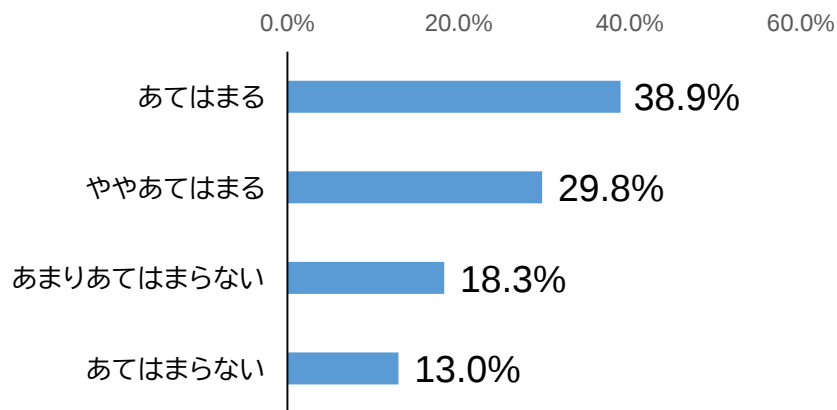
Q4. 大学で学んだことは、あなたの進路において役立つと思いますか(n=132)



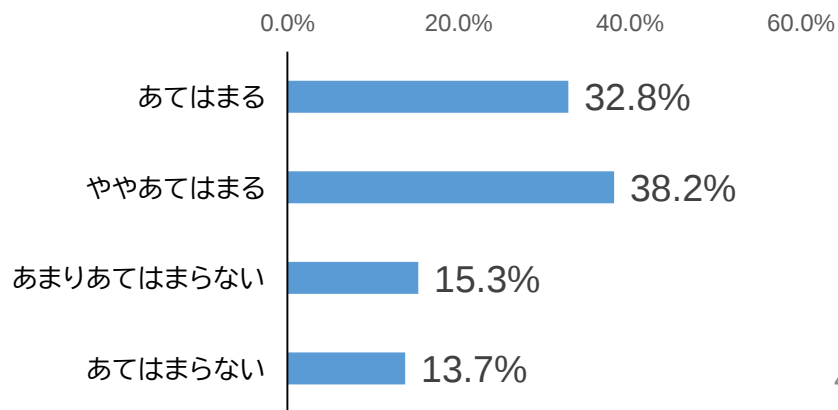
Q5. 情報源の信頼性に注意を払いながら、文章を読み込み、内容を理解し、整理できる(n=131)



Q5. 物事を見聞きしたまま受け取るのではなく、多角的かつ客観的に理解して判断できる(n=131)



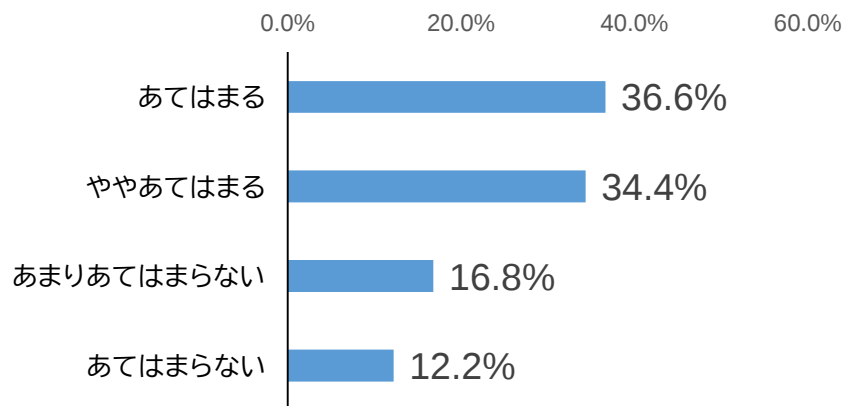
Q5. 社会の問題に関心を持ち、解決策を考えることができる(n=131)



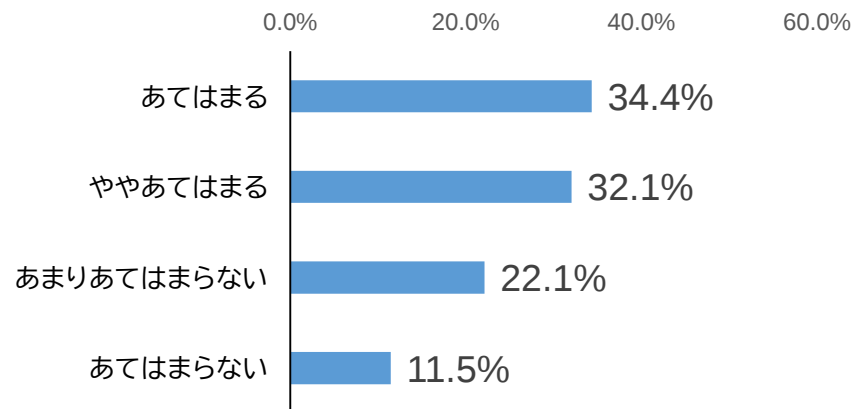
2. 全体：質問5の結果②



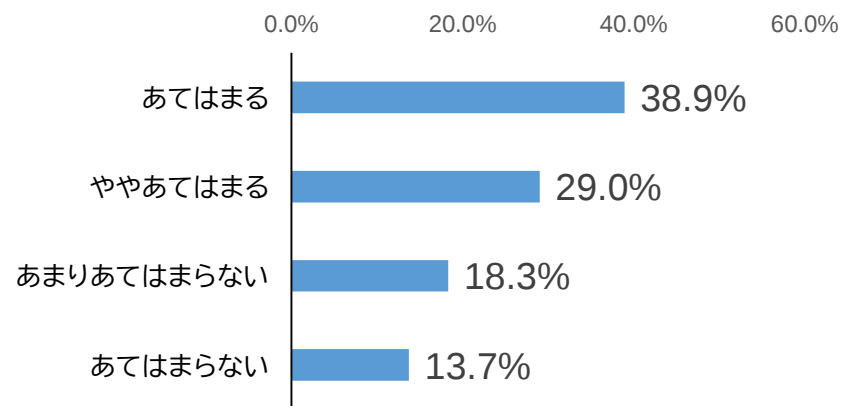
Q5. 問題の核心や現状、解決策の方法や目的などについてわかりやすく、かつ明確に記述することができる(n=131)



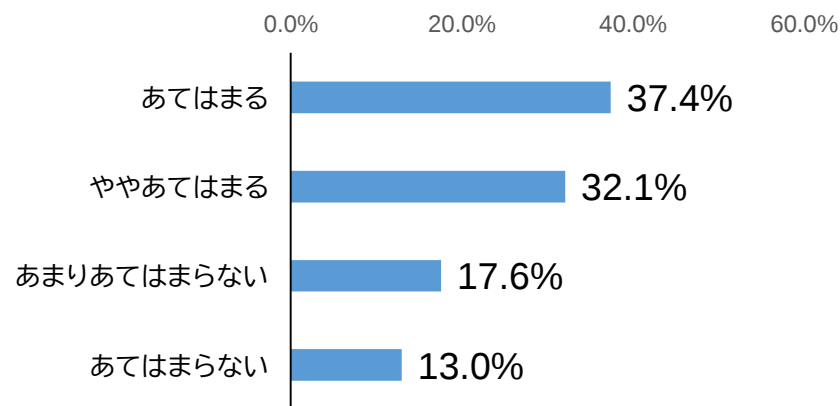
Q5. 聴衆に向けて、主旨や目的などをわかりやすく伝えることができる(n=131)



Q5. 目標達成に向けて、自ら積極的に行動できる(n=131)



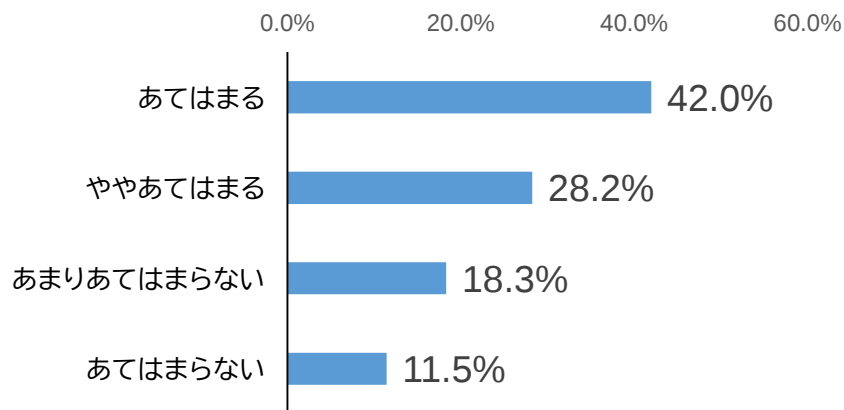
Q5. 話し合いや議論の中で、他者と意思疎通ができる(n=131)



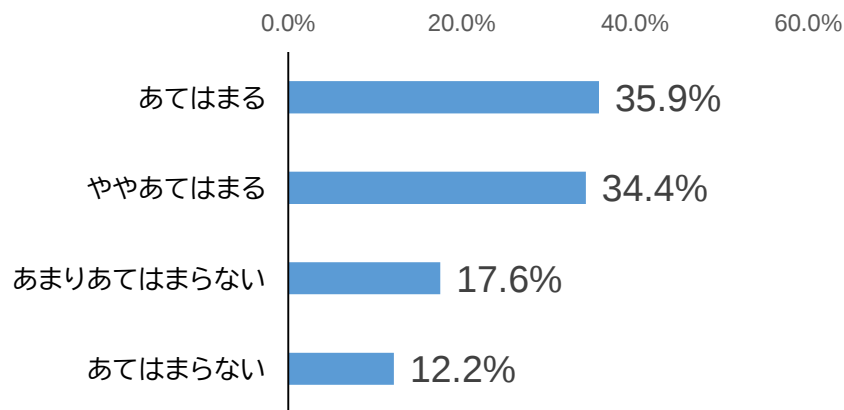
2. 全体：質問5の結果③



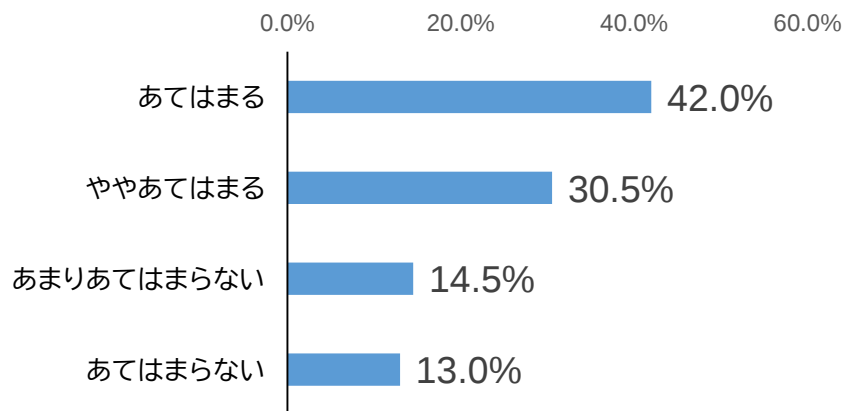
Q5. 価値観や文化の多様性を理解することができる(n=131)



Q5. 課題に対して、効果をあげる行動がとれる(n=131)



Q5. 集団・グループの中での自分の役割を理解し、協力して目標に取り組むことができる(n=131)



Point

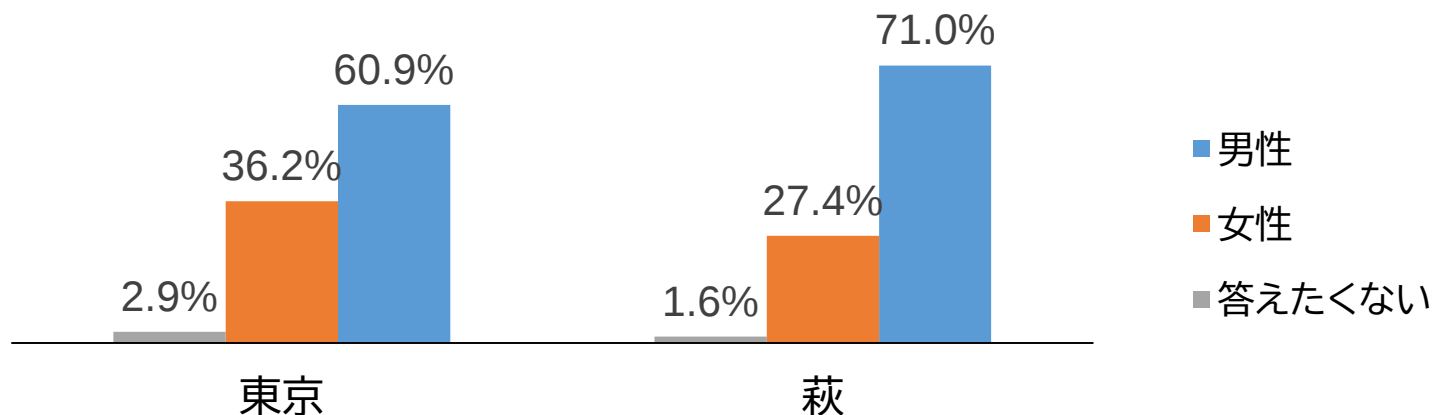
質問2～4より、卒業予定者の約95%が各々の就学地での学びに満足し、希望の進路を実現できていることがわかった。

一方で、質問5より、卒業時の能力について肯定的な回答は7割程度に留まっていることが明らかになった。特に、回答者の約4分の1(31名)は、質問5の項目すべてに「あまりあてはまらない」もしくは「あてはまらない」と回答している。

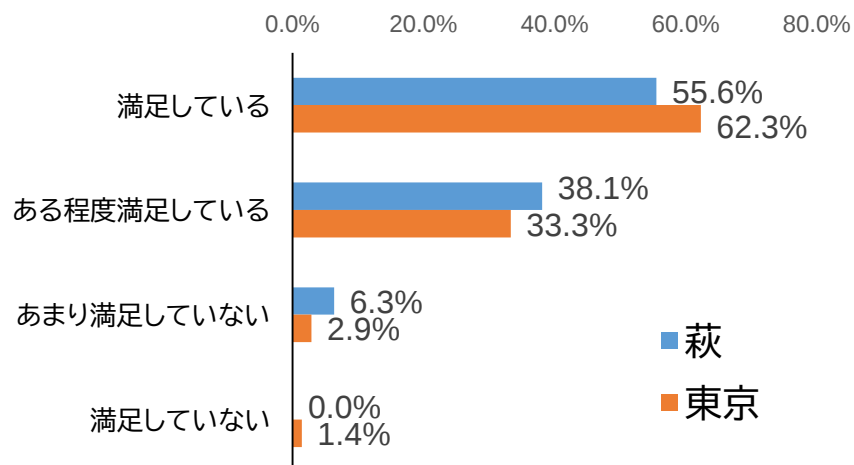
3. 就学地別：質問6ならびに2～3の結果



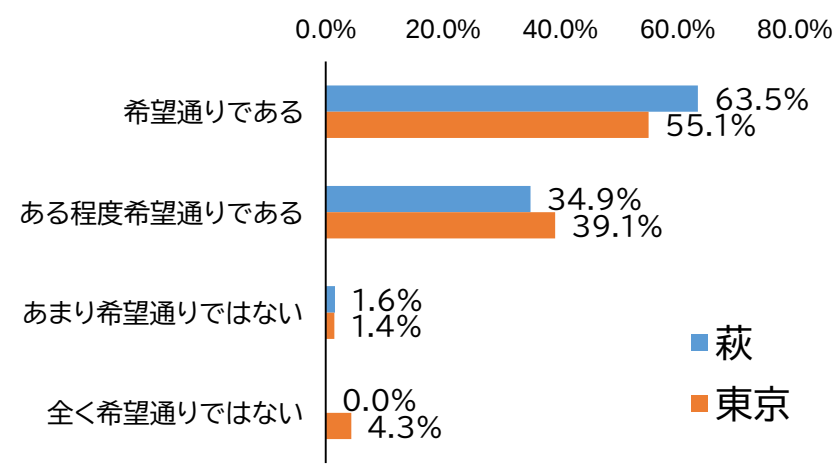
Q6. あなたの性別を教えてください(萩:n=62、東京:n=69)



Q2. あなたは、大学での学びに満足していますか(萩:n=63、東京:n=69)



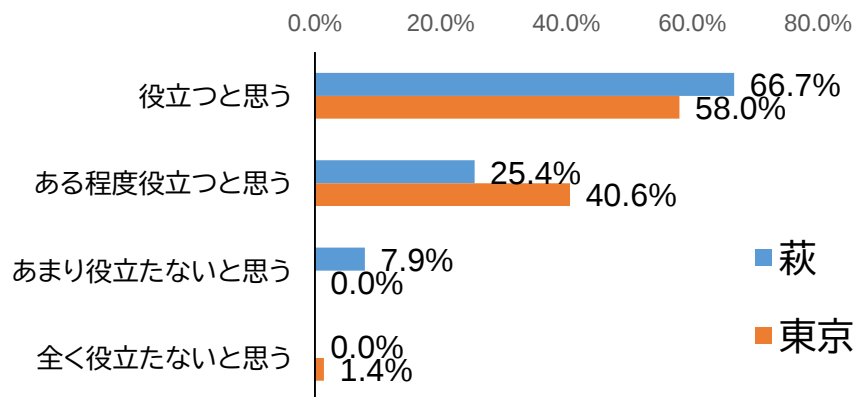
Q3. 卒業後の進路は、あなたの希望に沿ったものですか(萩:n=63、東京:n=69)



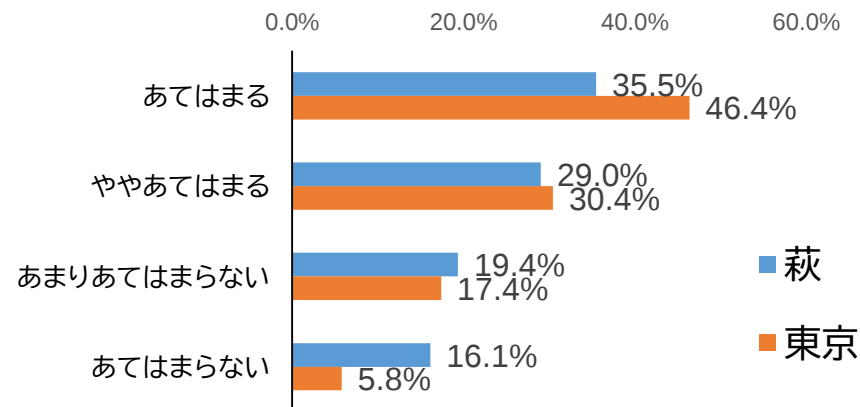
3. 就学地別：質問4ならびに5の結果①



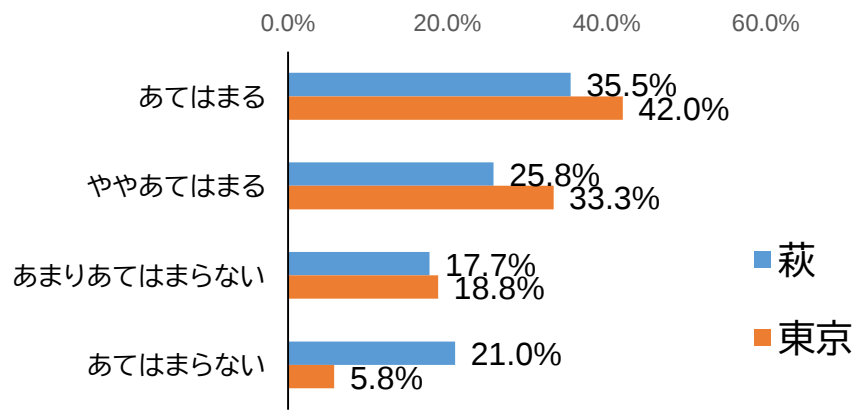
Q4. 大学で学んだことは、あなたの進路において役立つと思いますか(萩:n=63、東京:n=69)



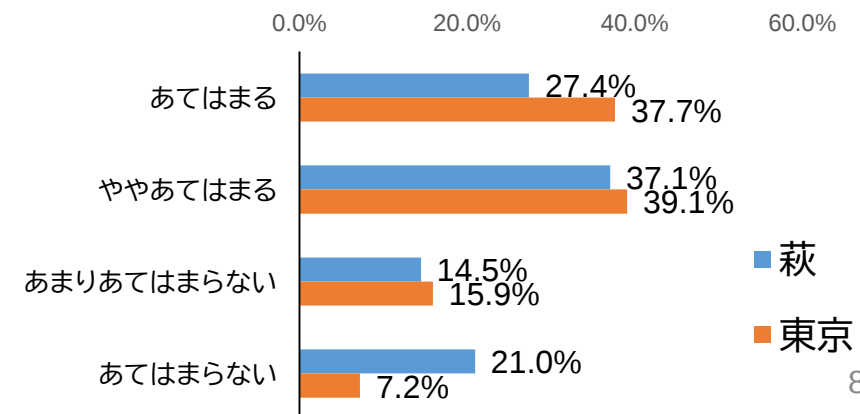
Q5. 情報源の信頼性に注意を払いながら、文章を読み込み、内容を理解し、整理できる(萩:n=62、東京:n=69)



Q5. 物事を見聞きしたまま受け取るのではなく、多角的かつ客観的に理解して判断できる(萩:n=62、東京:n=69)



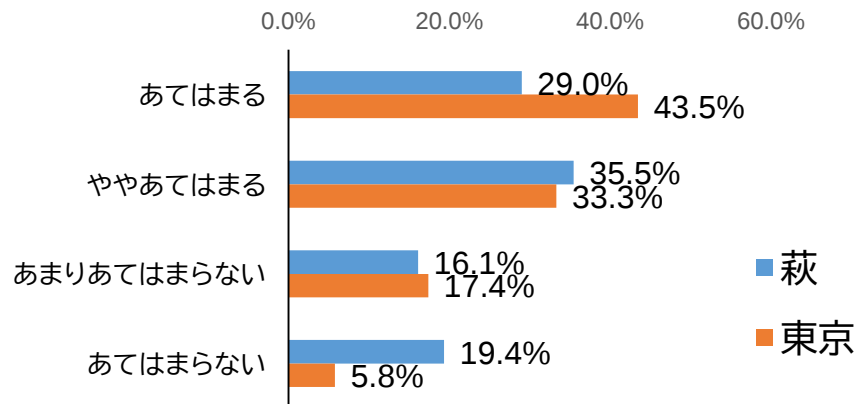
Q5. 社会の問題に関心を持ち、解決策を考えることができる(萩:n=62、東京:n=69)



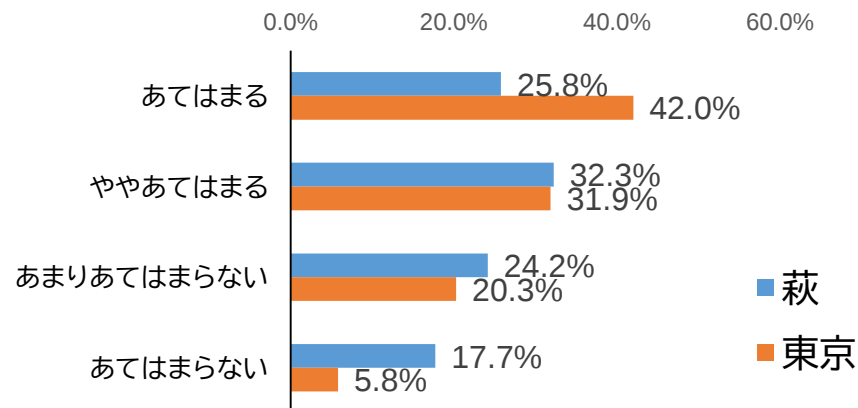
3. 就学地別：質問5の結果②



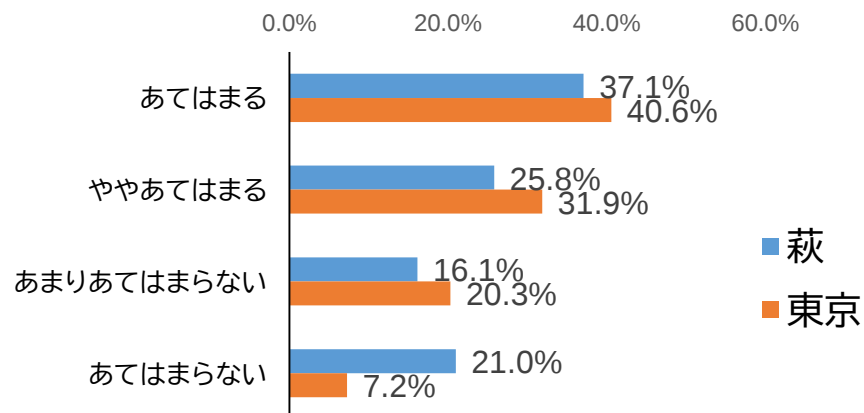
Q5. 問題の核心や現状、解決策の方法や目的などについてわかりやすく、かつ明確に記述することができる(萩:n=62、東京:n=69)



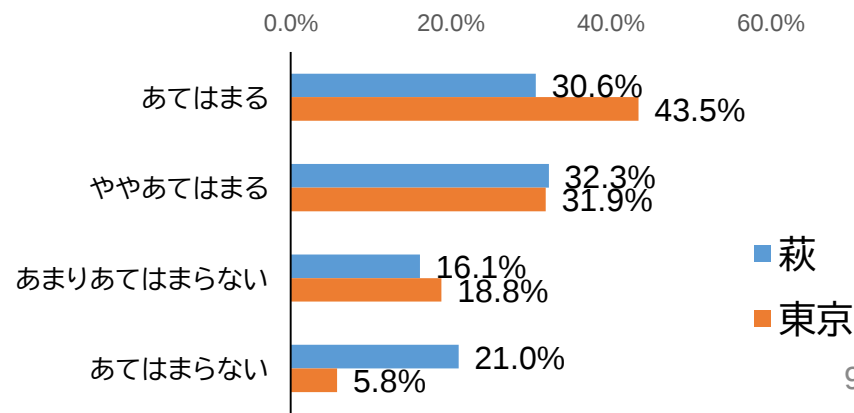
Q5. 聴衆に向けて、主旨や目的などをわかりやすく伝えることができる(萩:n=62、東京:n=69)



Q5. 目標達成に向けて、自ら積極的に行動できる(萩:n=62、東京:n=69)



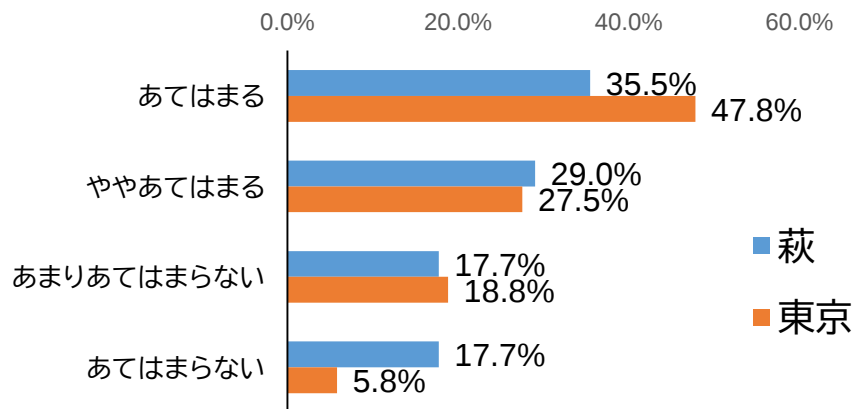
Q5. 話し合いや議論の中で、他者と意思疎通ができる(萩:n=62、東京:n=69)



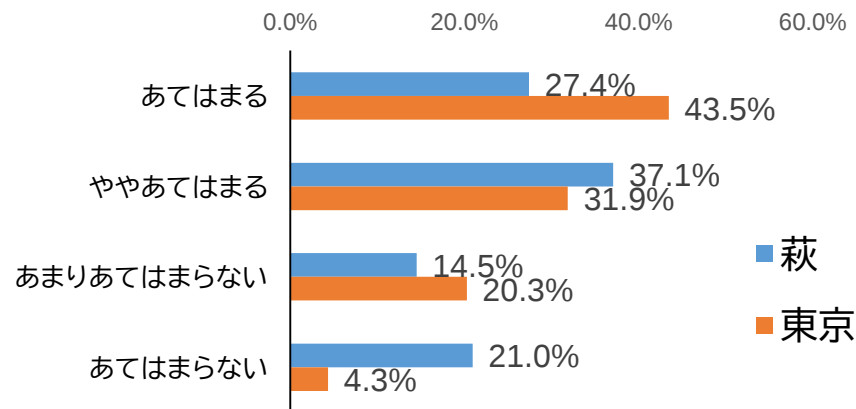
3. 就学地別：質問5の結果③



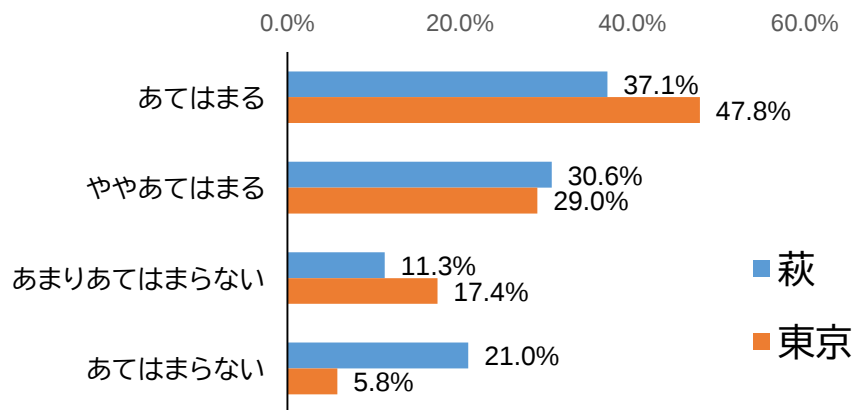
Q5. 価値観や文化の多様性を理解することができる(萩:n=62、東京:n=69)



Q5. 課題に対して、効果をあげる行動がとれる(萩:n=62、東京:n=69)



Q5. 集団・グループの中での自分の役割を理解し、協力して目標に取り組むことができる(萩:n=62、東京:n=69)



Point

質問3と4より、東京キャンパスと比較して萩キャンパスの学生は、進路先で大学での学びを活用しづらいととらえていることがわかる。大学での学びの生かし方について、工夫して提示することが求められる。

また、質問5より、卒業時の能力について、東京キャンパスの学生は萩キャンパスの学生と比較してより肯定的にとらえていることがわかる。この差を解消していくために、キャンパス間での授業内外の差異について分析することが求められる。



肯定的(具体的な記述があるものについてのみ原文ママを抜粋)

教職員

- ・ 教員方には色々とお世話になったので今後も生徒が安心して授業を受けていけるいい大学だと思いました。
- ・ 教員や職員の方々が本当に親身に接して下さりました。大学と地域の関係機関との結びつきも強さも実習などを通して感じました。卒業後も大学生活で学んだことを活かして頑張りたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 教員と関わりやすかった。
- ・ 教員さん、と沢山関わり思い出がたくさん出来ました。
- ・ 沢山の方に支えていただいた学生生活でした。
- ・ 先生方には丁寧に指導していただきました。そこが至誠館の強みだと感じました。ありがとうございました。
- ・ 至誠館大学では教員との距離が近く親身に相談に乗ってくれる先生もいたので不安なことがあってもすぐに払拭することができ安心して大学生活を楽しむことが出来ました
- ・ 子ども専攻は人数が少ないため先生が一人一人に寄り添って下さった。

授業

- ・ 教職について沢山の知識を学ぶことができたし人としても成長することが出来ました。

環境・設備

- ・ 将来の夢に向かって全力で取り組める環境だった
 - ・ 在学中は競技に集中して取り組めた。設備もある程度揃っていて充実した大学生活を送ることができた。
- ※ 「楽しかった」「ありがとうございました」



否定的(具体的な記述があるものについてのみ原文ママを抜粋)

授業

- ・ 講義に必要な自分の武勇伝を話すのを無くしてもらいたく、的確に必要なところを教えて欲しい、今後役に立たない話ではなく役に立つ話をしてほしい
- ・ 教員を目指す人と免許取得だけの人で授業態度に差があると思った。本気で教員を目指すものからすると、もっと学ばなかったこともあったので残念だった。ソフトボールやバスケットなどの球技の講義では他専攻の生徒もいて全然参加できなかった。そのため分けて欲しいなと思っていた。

クラブ活動

- ・ 部活動の上層部の独断、偏見、好き嫌いをなくしてみんな平等に接するべき
- ・ 部活生が優遇されすぎているとは常々感じていた。授業に出ていなくても出席扱いになり、一般生は授業に出ていても、確認不足で欠席になることも多々あった。

環境・設備

- ・ 食堂のメニューをもっと増やして欲しかったです。

要望

- ・ 日本じゃ留まらず、世界への発展！
- ・ 人の話を素直に聞くことができる、受け入れることができる人間が、もっともっと増え、思いやりのある人間で溢れてほしい。
- ・ 今後も幅広い学びを展開して頂きたい



肯定的(具体的な記述があるものについてのみ原文ママを抜粋)

教職員(1)

- 至誠館大学(東京キャンパス)では、少人数制の教育環境のもとで、教員や職員の方々との距離が近く、一人ひとりを丁寧に見ていただいていると感じながら学んできました。
- 在学中、至誠館大学では少人数教育を生かした丁寧な指導と、学生一人ひとりに寄り添う支援体制を強く感じました。授業では教員との距離が近く、質問や相談がしやすい雰囲気があり、学修面だけでなく進路や将来についても親身に助言をいただけたことが印象に残っています。
- 在学中、至誠館大学では教員や職員との距離が近く、学業や生活について相談しやすい環境だと感じました
- 在学中、教員や職員の方々には大変お世話になりました。特に、山口先生にはこの2年間、学業面だけでなく、大学院進学に向けた相談や、出願書類の準備などについても丁寧にご指導いただき、心より感謝しております。また、中部先生、永井先生には、日本語教育において大変お世話になりました。私たち留学生の日本語表現が十分でない場合でも、常に意図をくみ取ってくださり、安心して学ぶことができました。さらに、事務の方々にも、手続きや相談の際にいつも親身に対応していただき、安心して学生生活を送ることができました。
- 至誠館大学は、教員・職員と学生との距離が近く、一人ひとりに寄り添った教育・学生支援が行われている大学だと感じています。今後も、学生が将来について安心して相談できる支援体制が、さらに充実していくことを期待しています。
- 教員や職員の手厚い支援の中で、安心して学び成長できた。
- 大学の教育や学生支援体制については、履修相談や事務手続きなどで丁寧に対応していただいた場面が多く、特に留学生として分からないことが多い中でも安心して学業を続けることができました。教員の方々は授業中だけでなく、授業後の質問や進路相談にも親身に応じてくださり、学びへの意欲を高める大きな支えになりました。また、事務職員の方々も手続きや制度について分かりやすく説明してくださり、困った際に相談できる環境が整っていると感じています。



肯定的(具体的な記述があるものについてのみ原文ママを抜粋)

教職員(2)

- 先生方は皆とても熱心で、留学生としてわからないことが多くても、先生方はいつも丁寧に教えてくださいます。
- 先生方はとても親切で、いつも丁寧に指導してくださり、困ったときには親身になって助けてくださいました。
- 先生たちがすごく優しく教えてくださって、感謝しております。
- 至誠館大学について私の在学中に感じていた思いは良い大学です。困ったことがある時、先生方がすぐに支援してくれました。至誠館大学では色々なことを学んで来ました。さらに、こちらでは専門的な価値がある知識を身につけて、ソフトスキルを鍛えて、挑戦する機会を得ることになりました。大学が今後も多くの世代の学生に真に役立つ知識を開発し、教え続けることを願っています。本当にありがとうございます。
- 至誠館大学では、留学生に対する学習面や生活面でのサポートが比較的充実しており、安心して学生生活を送ることができました。授業や課題について分からない点があった際には、教員の方が丁寧に説明してくださり、相談しやすい雰囲気を感じました。また、職員の方々もビザや手続きなどについて親身に対応してくださり、大変助かりました。

授業

- 授業においては、専門知識を一方的に学ぶだけでなく、意見を求められたり、実体験を交えて考える機会が多く、自分の考えを言葉にする力を養うことができました。

学生間の交流

- クラスメートの皆さんも明るく、すぐに打ち解けることができ、学習しやすい雰囲気だと思います。



要望

就職・進路支援

- 今後も、学生が将来について安心して相談できる支援体制が、さらに充実していくことを期待しています。
- 私は、大学が4年生の就職活動をさらに支援し、より良い環境を整えてくださることを願っています。例えば、学生が面接のために授業に出席できない場合でも、出席扱いにしていきたいと思います。もちろん、その面接に関する証明書類は学生が提出する必要があります。
- 今後は、留学生向けの就職支援やインターンシップ情報のさらなる充実、企業との連携機会が増えることで、より多様な進路選択が可能になることを期待しています。
- 今後は、就職支援に関する情報提供がさらに充実すると、より良い大学生活につながると期待しています。
- 全体的に大変満足していますが、もしクラスや学年・コースを超えた交流活動がもう少し増えれば、さらに楽しく、有意義な学校生活になると思います

行事

- 学校が、より多くのフィールドワーク活動を企画してくれることを望みます。
- 今後は、留学生同士だけでなく日本人学生との交流の機会がさらに充実すると、より良い大学生活につながると期待しています。
- 全体的に大変満足していますが、もしクラスや学年・コースを超えた交流活動がもう少し増えれば、さらに楽しく、有意義な学校生活になると思います



Point

両キャンパスともに、学生は教職員による支援に一定満足していることがわかる。特に、学生一人ひとりに対する個別指導をはじめとした、いわゆるきめ細かいケアについての記述が多く確認できることから、教職員には引き続き対応を継続していくことが求められる。

否定的な意見や要望について着目すると、萩キャンパスでは、授業に対する姿勢や取組みが学生によってギャップがある現状について言及した意見が目立つ。そのため、すべての学生が授業に対するモチベーションを維持できるよう、学生に対する取扱いや働きかけについて、省察が求められる。

一方、東京キャンパスでは、否定的な意見はほとんど確認されず、現在実施されている支援の継続や学生同士の交流の活性化を望む声が多くあがっている。授業や支援とは異なる学生同士・教職員との交流の機会をどのように取り持つか、検討が待たれる。